都市再生整備計画

三河安城マチナカ協創地区

愛知県 安城市

令和3年2月

事業名	確認
都市構造再編集中支援事業	
都市再生整備計画事業	
まちなかウォーカブル推進事業	

都道府県名	愛知県	市町村名	安城市	地区名	三河	安城マチ	ナカ協創	地区		面積	57.3	ha
計画期間	令和 3	年度 ~	令和 7	年度	交付期間	令和	3	年度 ~ 令	う 和	7	年度	

目標

(つかう)パブリックスペースの活用をきっかけとした、民間まちづくり活動との連携(協創)による「心地よくまちをつかい続けられる」しくみの形成。

(つくる)ミクストスペースの活用をきっかけとした、ステークホルダーとの連携(協創)による「心地よくまちをつかい続けられる」空間の形成。

(集まる)マチナカプレイスメイキングの活用をきっかけとした、民間まちづくり活動とステークホルダーとの連携による「居心地よく滞在できる」マチナカの形成。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

【**まちの成り立ち**】本市の三河安城駅周辺は、昭和63年の新幹線駅三河安城駅の開業を契機に、土地区画整理事業により誕生/成長した新しいまちである。

【**まちの当初設定ビジョン**】安城市の副都心として、そして西三河の玄関口"新三河文化の創造"拠点として、「まち」と「ひと」はともに育ってきた。

【まちの成長】新幹線駅の開業や土地区画整理事業の施行に加え、三河安城駅周辺まちづくり指導要綱や地区計画の併用によるまちづくりにより、街区の約88%の敷地に建物が立地し、計画的かつ段階的な居住・都市機能が誘導されている。 【まち・ひとの成長】居住・都市機能の段階的な立地により、居住者は安定的に増加(開業前の約4倍、計画人口の約1.3倍(8,060人/2015年国調、当初1,928人、計画6,251人))している。また、近年では次世代自動車の研究開発企業が現在進行形で 集積しつつあるなど、昼夜を問わず多くの居住者・就労者が滞在するまちとなっている。

【ひと(活動)の成長】これまでのマチナカでの人流は、居住/就労空間への往来が主であったが、令和2年創設の公共空間を活用した社会実験制度(マチナカプレイスメイキング)を契機に、まちをつかう民間活動も行われるようになるなど、少しずつであるがまちをつかう取組が始まっている。

課題

【都市施設の陳腐化】まちびらきから30年以上経過し、鉄道駅連絡通路の雨漏りや歩道のインターロッキングブロック、公園内公共空間の劣化だけでなく、昨今の民間活動に見合った機能(電源、給排水等)がマチナカに不足するなど、都市施設の陳腐化が始まっている。

【活動するしくみ】公共空間が区域の約46%を占めるにも関わらず、公共空間を使ったイベントなどで定期的に活用するしくみがないため、区域内の活動者が滞在できる公共空間となっていない。

【滞在ニーズと都市機能のギャップ】人が集まって居心地よく滞在できる都市機能(カフェ・店舗など)が少なく、本地域で滞在する人々がいない。

【活動ニーズと都市機能のギャップ】公共空間/民間空間をつかった「まちをつかう」社会実験が継続的に行われているものの、活動者のニーズに応えられる都市機能となっておらず、活動内容に限界が生じている。

将来ビジョン(中長期)

★三河安城駅周辺における将来ビジョン

【総合計画】

・本区域を中心とする地域は、交通の要衝として、高品位なまちづくりにより都市機能の再編を図り、本市の商業・業務の中心にふさわしい魅力と活力にあふれた拠点形成を図るべき区域としている。

【第三次安城市都市計画マスタープラン(都市計画マスタープラン及び立地適正化計画を内包するもの)】

・本区域は、マチナカ拠点区域(都市機能誘導区域)に位置付けられ、西三河を支える地域拠点(広域的な拠点)として、新幹線三河安城駅周辺を中心に居住・都市機能を高度に集積させていくべき地域としている。

★まちづくりにおける将来ビジョン

【総合計画】

・健幸都市推進プロジェクト(前期計画)で、まちづくりを進める上で、活動の主役となるヒトを育てるため、「きっかけづくり」、「しくみづくり」を掲げている。

【第三次安城市都市計画マスタープラン(都市計画マスタープラン及び立地適正化計画を内包するもの)】

・「市民とともにつくり・つかう協創のまちづくり」を掲げ、みんなで力を合わせ、まちやまちのつかい方を創っていく「まちをつかい続けられる都市運営」を目指すこととしている。

目標を定量化する指標

指 標	単位	- 定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
(つかう)公共空間等を活用した、 まちをつかう! プロジェクト数			まちづくりにつながるまちをつかう民間活動と連携した、心地よくま ちをつかい続けられるしくみの浸透	5	R2	48	R7
(つくる) つかってつくる! リノベーションエリア	U/a		プレイヤーとステークホルダーが連携した、つかってつくる心地よく まちをつかい続けられる空間の創出	0	R2	17	R7
(集まる)まちをつかう!オーディエンス獲得数			まちづくりにつながるまちをつかう民間活動やステークホルダーと 連携した、区域内で居心地よく滞在するオーディエンスの獲得	290	R2	4,800	R7
(つかうの波及)まちをつかう! プレイヤー数			まちづくりにつながるまちをつかう民間活動と連携した、心地よくまちをつかい続けられるしくみの浸透	4	R2	10	R7

▋計画区域の整備方針 方針に合致する主要な事業 【パブリックスペースの活用をきっかけとした、民間まちづくり活動との連携(協創)による「心地よくまちをつかい続けられる」しくみの形成】 【基幹事業】 |滞在環境整備事業(社会実験)、滞在環境整備事業(調査)、高質空間形成施設(緑化施設等)、地域生活 ・本地域で広く提供するパブリックスペース(公共空間)での活動を最大化すべく、社会実験の後方支援(目的の明確化、活動データ取得等のコーディ |基盤施設(情報版)、公園事業 ネート)として滞在環境整備事業(調査)を実施する。また、社会実験によって必要性が明らかとなりうる「まちをつかう」上で必要な機能をパブリックス 【関連事業】 ペースに実装するため、滞在環境整備事業(社会実験)、高質空間形成施設(緑化施設等)、公園事業(三河安城ツインパーク)を実施する。これらの取 三河安城駅周辺地区計画、三河安城駅周辺まちづくり指導要綱、安城市駐車場附置義務条例 組により、民間まちづくり活動との連携(協創)が促進され、「心地よくまちをつかい続けられる」しくみが形成できるものと期待する。 |三河安城パワーアップ再生プロジェクト、マチナカプレイスメイキング、まちを知るきっかけづくり事業、オープ ンデータ活用事業、3D都市モデル運用事業、つかう.meet運営、まちづくりにおける連携協力に関する協定 制度、まちマスサポート事業 【ミクストスペースの活用をきっかけとした、ステークホルダーとの連携(協創)による「心地よくまちをつかい続けられる」空間の形成】 【基幹事業】 ・三河安城駅周辺まちづくり指導要綱で歩道と定めるミクストスペース(壁面後退用地)のあり方を検討すべく、社会実験の後方支援(活用の多様化等の|滞在環境整備事業(社会実験)、滞在環境整備事業(調査)、地域生活基盤施設(公開空地)、公園事業 コーディネート)として滞在環境整備事業(調査)を実施する。また、社会実験によって必要性が明らかとなりうる「まちをつかう」上で必要な機能をミクスト 【関連事業】 |三河安城駅周辺地区計画、三河安城駅周辺まちづくり指導要綱、安城市駐車場附置義務条例 スペースに実装するため、滞在環境整備事業(社会実験)、地域生活基盤施設(公開空地)、公園事業(三河安城ツインパーク)を実施する。これらの取 三河安城パワーアップ再生プロジェクト、マチナカプレイスメイキング、まちを知るきっかけづくり事業、オープ |組により、ステークホルダーとの連携(協創)による「心地よくまちをつかい続けられる」空間が形成できるものと期待する。 ンデータ活用事業、3D都市モデル運用事業、つかう.meet運営、まちづくりにおける連携協力に関する協定 制度、まちマスサポート事業 【マチナカプレイスメイキングの活用をきっかけとした、民間まちづくり活動とステークホルダーとの連携による「居心地よく滞在できる」マチナカの形成】 【基幹事業】 滞在環境整備事業(社会実験)、滞在環境整備事業(調査)、高質空間形成施設(緑化施設等)、地域生活 ・まちに滞在する人々が必要とするニーズ(社会課題)を発掘すべく、ターゲティング活動(社会実験)の後方支援として滞在環境整備事業(調査)を実施 基盤施設(情報版)、地域生活基盤施設(公開空地)、公園事業 |する。また、社会実験によって必要性が明らかとなりうる「まちをつかう」上で必要な機能をマチナカに実装するため、滞在環境整備事業(調査)、滞在環

その他

【まちづくりの住民参加】

・令和2年6月、「マチナカプレイスメイキング事業」を創設し、仮説ある活動に対し、当区域内の公共空間を無償貸出するしくみ(1ストップ申請かつデータ支払)をつくり、まちをつかう取組の普及、民間まちづくり活動の発掘を行っている。

【関連事業】

制度、まちマスサポート事業

三河安城駅周辺地区計画、三河安城駅周辺まちづくり指導要綱、安城市駐車場附置義務条例

三河安城パワーアップ再生プロジェクト、マチナカプレイスメイキング、まちを知るきっかけづくり事業、オープンデータ活用事業、3D都市モデル運用事業、つかう.meet運営、まちづくりにおける連携協力に関する協定

- |・現在、「三河安城商店街振興組合」、「株式会社カンドタカメ」、「NPOMieru-Da Project」、「三河安城まちかどネットワークlink」から公共空間を活用した社会課題解決の企画提案書を受け、4団体が社会実験を行っている。
- ┃・「三河安城商店街振興組合」、「株式会社カンドタカメ」が発起人となり上記4団体及び安城市有志で集まった「まちをつかう」知恵を出し合うプラットフォームとして、「つかう.meet」が結成されている。
- •「つかう.meet」の定期開催以降、団体間のコラボレーション活動が企画され、本地域の公共空間において、公民及び民民連携が始まりつつある。

境整備事業(社会実験)、高質空間形成施設(緑化施設等)、地域生活基盤施設(情報版)、地域生活基盤施設(公開空地)、公園事業を実施する。これ

らの取組により、民間まちづくり活動とステークホルダーとの連携による「居心地よく滞在できる」マチナカが形成できるものと期待する。

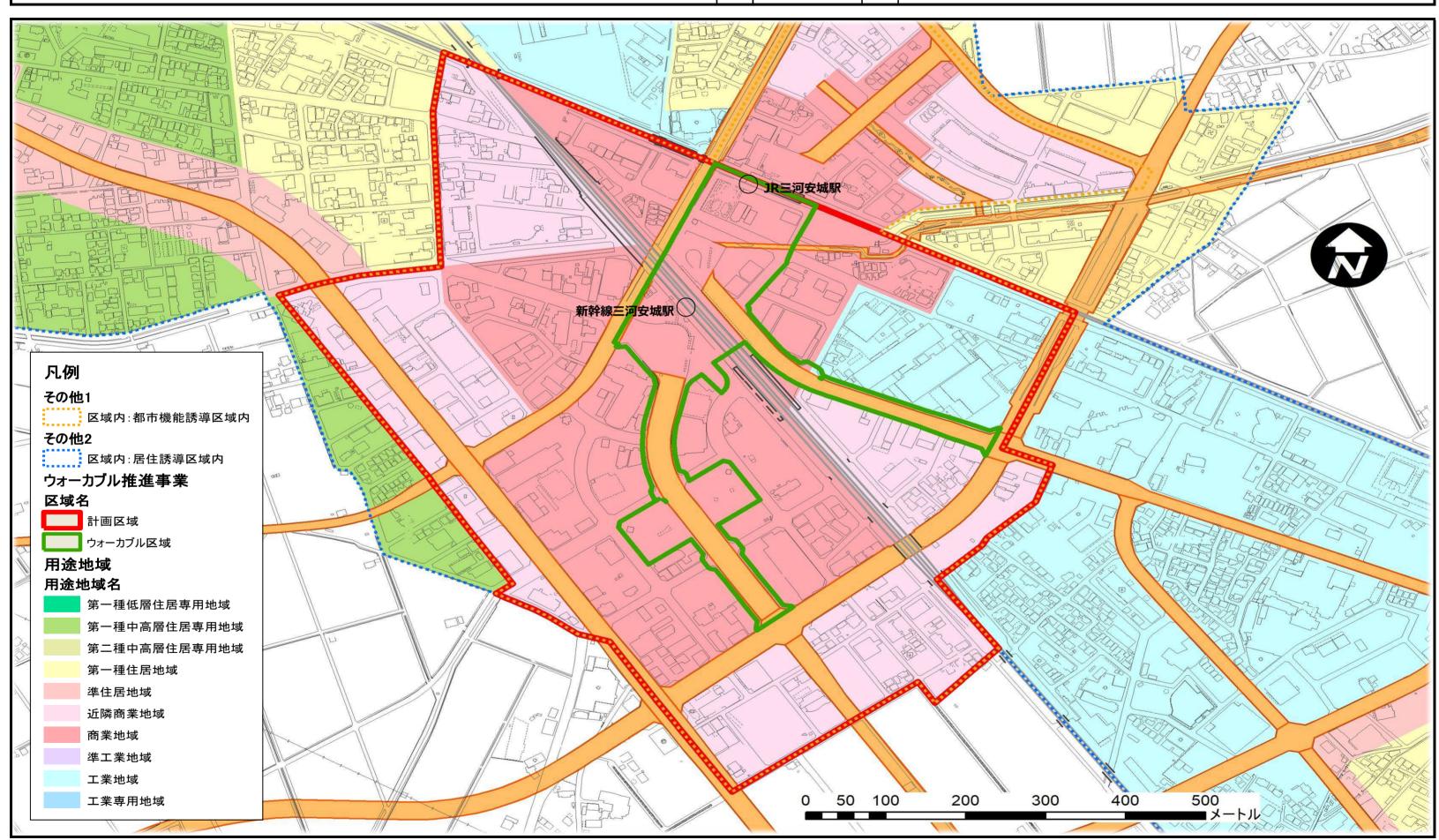
- ・ホテルグランドティアラ安城(株式会社レクスト)と「まちづくりにおける連携協力に関する協定書」を締結し、(都)駅前中央通り線の歩道隣接空間(奥行2m分)を社会実験用地として提供されている。 【その他】
- 内閣府の「i-都市再生モデル調査」で選定され、まちの課題(データ)をGoogle Earthで見える化するしくみを構築(コンバーターアプリの開発)し、つかう.meetや区域内イベントでの活用など、まちづくりにおけるDX活用が始まっている。
- |・国土交通省の3D都市モデルに選定され、LOD2相当の3D都市モデルを作成し、まちづくりにおけるDX活用が始まっている。

【官民連携事業】

※都市再生整備計画区域内で、道路占有特例、河川敷地占有、歩行者経路協定、都市利便増進協定を活用する場合には記載する。 今後、民間まちづくり活動の進展により、道路占有特例の追加を検討する。

目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項(まちなかウォーカブル推進事業)

交付対象事業費	406 交付	限度額	20	03	国	貴率	0	.5				(女性の当	* /-; /	\
												(金額の耳	単位は百万円)
	市业体 工力	★* → /+	T = /88	+0+#	(参考)	事業期間	交付期間	内事業期間	(参考)全体	交付期間内			交付対象	費用便益比
事業細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	開始年度	終了年度	開始年度	終了年度	事業費	事業費	うち官負担分	うち民負担分	事業費	B/C
公園	三河安城ツインパーク	市	直接		R5	R7	R5	R7	60	60	60		60	
駐車場有効利用システム														
地域生活基盤施設(公開空地)	(都)駅前中央通り線沿線壁面後退用地	民間	間接		R5	R7	R5	R7	45	45	30	15	30	
地域生活基盤施設(情報版)	(都)安城幸田線ほか	市	直接		R4	R5	R4	R5	30	30	30		30	
高質空間形成施設(緑化施設等)	中央駅前広場東暫定広場ほか	市	直接		R4	R7	R4	R7	57	57	57		57	
高質空間形成施設														
既存建造物活用事業														
土地区画整理事業														
市街地再開発事業														
バリアフリー環境整備促進事業														
街なみ環境整備事業														
滞在環境整備事業(社会実験)	三河安城マチナカ協創地区	市	直接		R3	R7	R3	R7	149	149	149		149	
滞在環境整備事業(調査)	三河安城マチナカ協創地区	市	直接		R3	R7	R3	R7	80	80	60		80	
合計									421	421	386	15	406	
条事業	•									•				
		Alle > 1 L	+ 488	40.1#	(参考)	事業期間	交付期間	内事業期間	(参考)全体	交付期間内			交付対象	
事業細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	開始年度	終了年度	開始年度	終了年度	事業費	事業費	うち官負担分	うち民負担分	事業費	
					111111111111111111111111111111111111111	111111111111111111111111111111111111111	17.72 1.22	111111	于水民	于不及	75日英温力	7520,201273	于水吳	
地域創造														
支援事業														
事業活用調														
查														
まちづくり活														
動推進事業														
合計											0 0	0		ов
H H										4		合計(A+B)	406	
考)関連事業												п н (/ (- Б)	400	
事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模			いかに()			美期間	全体事業費	1		
					直轄	補助	地方単独	民間単独	開始年度	終了年度	土仲尹未貝			
三河安城駅周辺地区計画	三河安城駅周辺地区	民間	-	17.3ha			0	0	H4	-	0			
三河安城駅周辺地区まちづくり指導要綱	三河安城駅周辺地区	民間/安城市	-	-			0	0	H4	-	0			
安城市駐車場附置義務条例	JR三河安城駅周辺地区	民間/安城市	-	77.5ha					H5	-	0	1		
三河安城パワーアップ再生プロジェクト	三河安城地域マチナカ拠点区域	民間/安城市	-	-			0		R2	-	0	1		
マチナカプレイスメイキング	マチナカ拠点区域	民間/安城市	-	-			0	0	R2	-	0	1		
まちを知るきっかけづくり事業	マチナカ拠点区域	民間/安城市	-	-			0	0	R1	-	0]		
オープンデータ活用事業	安城市域	安城市	-	-			0		R2	-	0]		
3D都市モデル運用事業	三河安城地域マチナカ拠点区域	安城市	国土交通省	-			0		R2	-	0]		
つかう.meet運営	三河安城地域マチナカ拠点区域	民間/安城市	_	-			0	0	R2	-	0]		
まちづくりにおける連携協力に関する協定制度	三河安城地域マチナカ拠点区域	民間/安城市	-	-			0	0	R2	-	0			
まちマスサポート事業	マチナカ拠点区域	民間/安城市	-	-			0	0	R2	-	0	1		
]		



三河安城マチナカ協創地区(愛知県安城市) 整備方針概要図(まちなかウォーカブル推進事業)

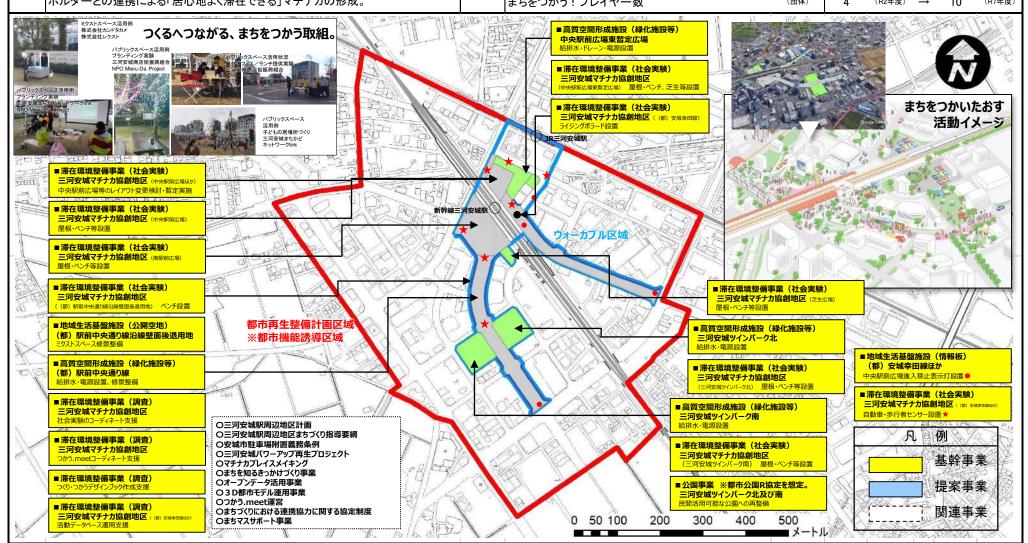
・パブリックスペースの活用をきっかけとした、民間まちづくり活動との連携(協創)による「心地よくまちをつかい続けられる」しくみの形成。

・・ミクストスペースの活用をきっかけとした、ステークホルダーとの連携(協創)による「心地よくまちをつかい続けられる」空間の形成。

目標

・マチナカプレイスメイキングの活用をきっかけとした、民間まちづくり活動とステーク ホルダーとの連携による「居心地よく滞在できる」マチナカの形成。

	公共空間等を活用した、まちをつかう!プロジェクト数	(回/年)	5	(R2年度) →	48	(R7年度)
代表的	つかってつくる! リノベーションエリア	(%)	0	(R2年度) →	17	(R7年度)
な指標	まちをつかう!オーディエンス獲得数	(人/年)	290	(R2年度) →	4800	(R7年度)
	まちをつかう! プレイヤー数	(団体)	4	(R2年度) →	10	(R7年度)

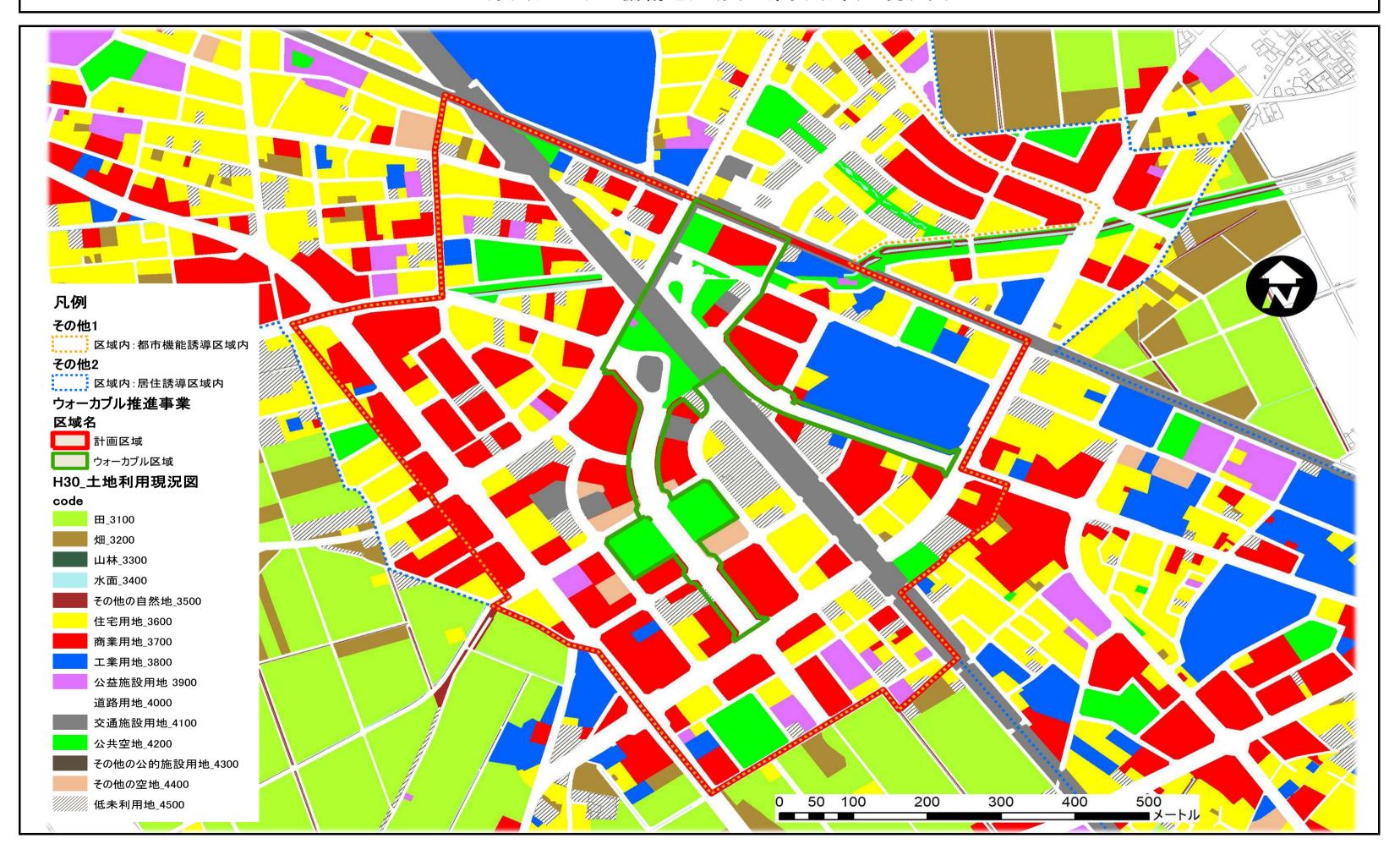


都市再生整備計画の添付書類等

交付対象事業別概要

みかわあんじょう 三河安城マチナカ協創地区 (愛知県安城市)

三河安城マチナカ協創地区(愛知県安城市) 現況図



10935 百万円

交付限度額算定表(その1) 三河安城マチナカ協創地区 (愛知県安城市) 様式(2)-③ 各事業の交付要綱に掲げる式による交付限度額の合計(X) 406.0 百万円 規則第16条第1項に基づく交付限度額(Y) 10,935.0 百万円 X≦Yゆえ、 本計画における交付限度額 406.0 百万円 規則第16条第1項に基づく限度額算定 257,883 **m** 0 円 Au Aр 202076 m 住宅施設 公共施設の上限整備水準 公共施設の現況整備水準 建設予定戸数(戸) 超高層 区域面積(m²) 573,074 整備水準が明らかになっている類似市街地等からの推定 一般 合計 推定現況整備水準(小数第2位まで) 0 当該区域 区域の面積が10ha未満の地区 0.50 推定公共施設面積(m)) 標準整備費(円/戸) 超高層 -般 の特性に 応じて国 41.310.000 33,500,000 北海道特別地区 \circ 最近の国勢調査の結果による人口集中地区内 0.45 土交通大 ○ 個別公共施設の積み上げ 北海道一般地区 38,190,000 30,990,000 臣が定め 面積(㎡) 特別地区 割合 49,120,000 35,690,000 その他の地域 0.40 る割合 道路 171.346 大都市地区 37.170.000 30.180.000 0.3 公園 22.783 0.04 多雪寒冷地区 41.510.000 32.370.000 広場 0.01 39.520.000 35.640.000 4.779 奄美地区 368,900 円/㎡ 緑地 3,168 0.01 沖縄地区 30,280,000 30,280,000 単位面積あたりの標準的な用地費 公共施設合計 202,076 0.35 一般地区 33,700,000 28,640,000 標準地点数 2 10935 百万円 |公示価格の平均値(円/㎡) 210,500 Cnを考慮しない場合の交付限度額(Y1) 市街地再開発事業による施設建築物 0 円 単位面積あたりの標準的な補償費 施設建築物の延べ面積(㎡) |当該区域内の戸数密度(戸/㎡) 0.001 |標準共同施設整備費(円/m²) 132,000 標準補償費(円/戸) 44,000,000 0 ΣCn 0 円 下水道 電線共同溝等 0 円 区域面積(m²) 573,074 電線共同溝等延長(m) 23,000 **円/㎡** うち現況の供用済み区域面積(㎡) 標準整備費(円/m) 680,000 標準整備費(円/㎡) 3,600 人工地盤 0 円 地域交流センター等の公益施設(建築物) 0 円 0 百万円 人工地盤の延べ面積(m)) まちづくり交付金とは別に国庫補助事業等により整備する施設 上限床面積(m²) 9,400 標準整備費(円/m²) 5,300,000 国庫補助事業 標準整備費(円/㎡) 590.500 施設名(事業名) 面積(m) 費等(百万円) 協議して額を定める大規模構造物等 0 円 整備費(円) 調整池 大規模構造物等 協議状況 調整池の容積(m³) 140.000 標準整備費(円/m³) 河川 0 円 河川整備延長(m)

3,700,000

Cnを考慮した場合の交付限度額(Y2)

標準整備費(円/m)

各事業の交付要綱に掲げる式による交付限度額(活用する交付金の欄のみご記載ください。)

ノ却士排法五婦焦山士採恵業	
<都市構造再編集中支援事業	: >
交付限度額(X1)	百万円
<都市再生整備計画事業>	
交付限度額(X2)	百万円
くまちなかウォーカブル推進事	.業>
交付限度額(X3)	406.0 百万円

交付限度額算定表(その2)(まちなかウォーカブル推進事業)

三河安城マチナカ協創地区 (愛知県安城市)

様式(2)-4-3

社会資本整備総合交付金交付要綱に掲げる式による限度額算定(詳細)

単位:百万円 ※水色のセルに事業費等必要事項を入力して下さい。(百万円単位) 〇交付対象事業費(*必ず入力*) (百万円) (百万円) 203.000 ① (国費) 基幹事業合計(A) 406.000 A (事業費) 1)式で求まる額(5/10*(A+B)) 2)式で求まる額(5/8*A) 253.750 ② (国費) 交付対象事業費 提案事業合計(B) 0.000 B (事業費) 203.000 ③ (国費) 合計(A+B) (事業費) 上記①、②の小さい方 406.000 提案事業割合(B/(A+B)) 国費率(③÷(A+B)) 0.500 ④ (国費率) 0.000

○交付限度額、国費率の算出

交付対象事業費(A+B)	406.0		社会資本整備総合交付金交付要綱に掲げる式による交付限度額(⑩を1万円の位を切り捨て)	203.0	①(国費)
		•	国費率	0.500	18 (国費率)

事業箇所名 安城ツインパーク 駅前中央通り線沿線壁面後退用地 安城幸田線ほか 駅前広場東暫定広場ほか	安城市 民間 安城市	交付対象 事業費 60 30	令和3年度 0 0	令和4年度 0 0	令和5年度 20 10	令和6年度 38	令和7年原
駅前中央通り線沿線壁面後退用地 安城幸田線ほか	民間	60	0	0			
駅前中央通り線沿線壁面後退用地 安城幸田線ほか	民間	30	0	0			
安城幸田線ほか			0	0	10		
安城幸田線ほか			0	0	10		
	安城市				10	19	
駅前広場東暫定広場ほか		30	0	10	20	0	
STATE SATE ACIDE STORE	安城市	57	3	6	22	24	
安城マチナカ協創地区	安城市	149	2	44	89	8	
安城マチナカ協創地区	安城市	80	10	25	15	15	
		406	15	85	176	104	
					•	·	
事業箇所名	事業主体	交付対象 事業費	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年
		_					
		0	0	0	0	0	
		0 406	15	0 85	176	104	
_	安城マチナカ協創地区	安城マチナカ協創地区 安城市	安城マチナカ協創地区 安城市 80 406	安城マチナカ協創地区 安城市 80 10 406 15 事業簡所名 事業主体 交付対象 令和3年度	安城マチナカ協創地区 安城市 80 10 25 406 15 85 事業箇所名 事業主体 交付対象 令和3年度 令和4年度	安城マチナカ協創地区 安城市 80 10 25 15 406 15 85 176 事業商所名 李付対象 令和3年度 令和4年度 令和5年度	安城マチナカ協創地区 安城市 80 10 25 15 15 406 15 85 176 104 事業商所名 事業主体 交付対象 令和3年度 令和4年度 令和5年度 令和6年度

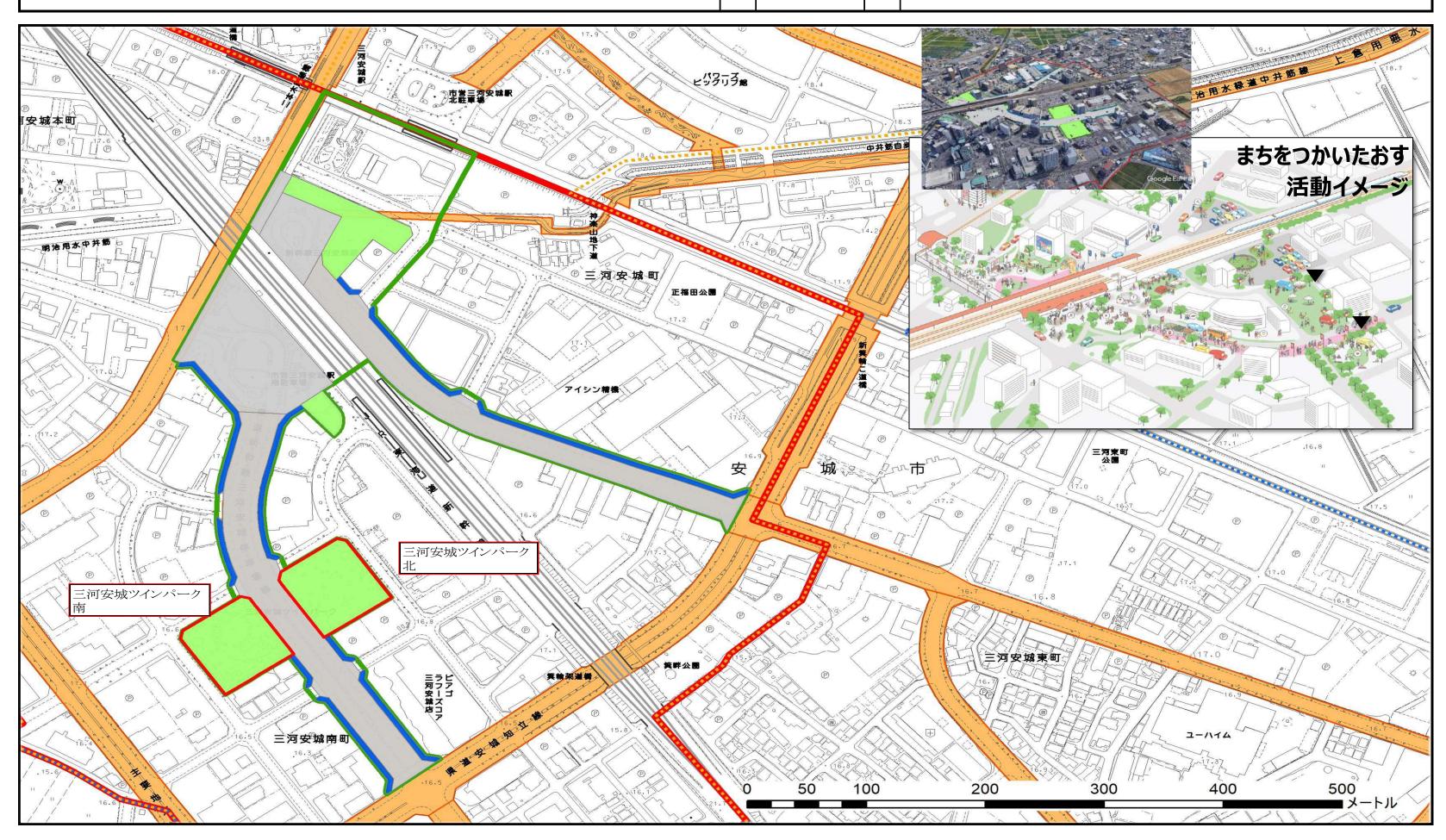
(参考)都市構造再編集中支援事業関連事業								
事業	事業箇所名	事業主体	交付対象 事業費	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
合計			0	0	0	0	0	0
累計進捗率(%)				#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

事業	事業箇所名	事業主体	全体 事業費	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
三河安城駅周辺地区計画	三河安城駅周辺地区計画区域	民間	0	0	0	0	0	0
三河安城駅周辺まちづくり指導要綱	三河安城駅周辺まちづくり指導要綱区域	民間/安城市	0	0	0	0	0	0
安城市駐車場附置義務条例	三河安城駅周辺駐車場整備地区	民間/安城市	0	0	0	0	0	0
三河安城パワーアップ再生プロジェクト	三河安城地域マチナカ拠点区域	民間/安城市	0	0	0	0	0	0
マチナカプレイスメイキング	マチナカ拠点区域	民間/安城市	0	0	0	0	0	0
まちを知るきっかけづくり事業	マチナカ拠点区域	民間/安城市	0	0	0	0	0	0
オープンデータ活用事業	安城市域	安城市	0	0	0	0	0	0
3D都市モデル運用事業	三河安城地域マチナカ拠点区域	安城市	0	0	0	0	0	0
つかう.meet運営	三河安城地域マチナカ拠点区域	 民間/安城市	0	0	0	0	0	0
まちづくりにおける連携協力に関する協定制度	三河安城地域マチナカ拠点区域	 民間/安城市	0	0	0	0	0	0
まちマスサポート事業	マチナカ拠点区域	 民間/安城市	0	0	0	0	0	0
				0	0	0	0	0
			0	0	0	0	0	0

公園(都市公園補助事業採択要件外)

					交付	け期間内事業費	内訳	
公園等名(*1)	種別等(*2)	事業主体(*3)	概要(面積(m²)等)	交付期間内	設計費	用地費	施設整備費	備考(*5)
			(*4)	事業費(百万円)	(百万円)	(百万円)	(百万円)	
三河安城ツインパーク北	近隣公園	安城市/民間	5,000	30	10		20	都市公園リノベーション協定 制度を活用予定。
三河安城ツインパーク南	近隣公園	安城市/民間	5,000	30	10		20	都市公園リノベーション協定 制度を活用予定。
合計	_	_	_	60	20		40	_

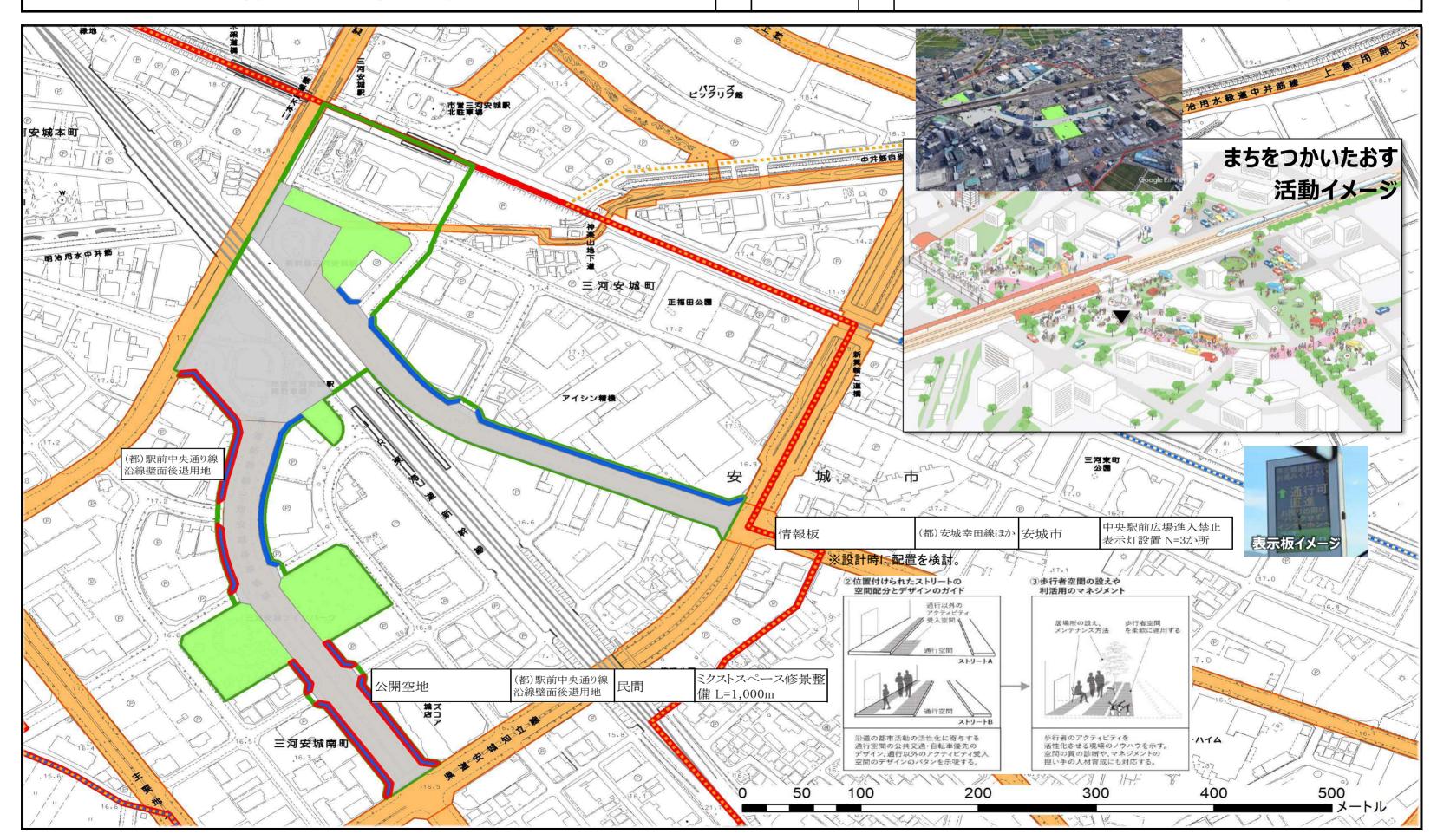
- *1 公園等名ごとに1行ずつ記入。足りない場合は、適宜行を追加すること。
- *2 「種別等」欄には、都市公園の種別である「街区公園」、「近隣公園」、「地区公園」、「特定地区公園」、「総合公園」、「運動公園」、「動植物公園」、「歴史公園」、「広域公園」、「レクリエーション都市」、「風致公園」、「墓園」、「緩衝緑地」、「都市緑地」、「緑道」のいずれかを記入。
 - 都市公園でない場合は「無」を記入し、「概要(面積等)」欄に制度上の位置付け(条例設置公園等)を簡潔に記載。
- *3「事業主体」欄には、事業の施行者を記入。(間接交付の場合は、交付金事業者ではなく、「第三セクター」等の施行者を記入。)
- *4「概要(面積(㎡)等)|欄には、都市公園でない場合に公園としての制度上の位置づけを記入する他、計画面積(単位:㎡)等を記入すること。
- *5「備考」欄には整備する主な施設(園路、植栽、あずまや、体験学習施設等)を簡潔に記載。
- *6 青色で着色してあるセルは自動計算されるので入力しないこと。



地域生活基盤施設

単位:百万円

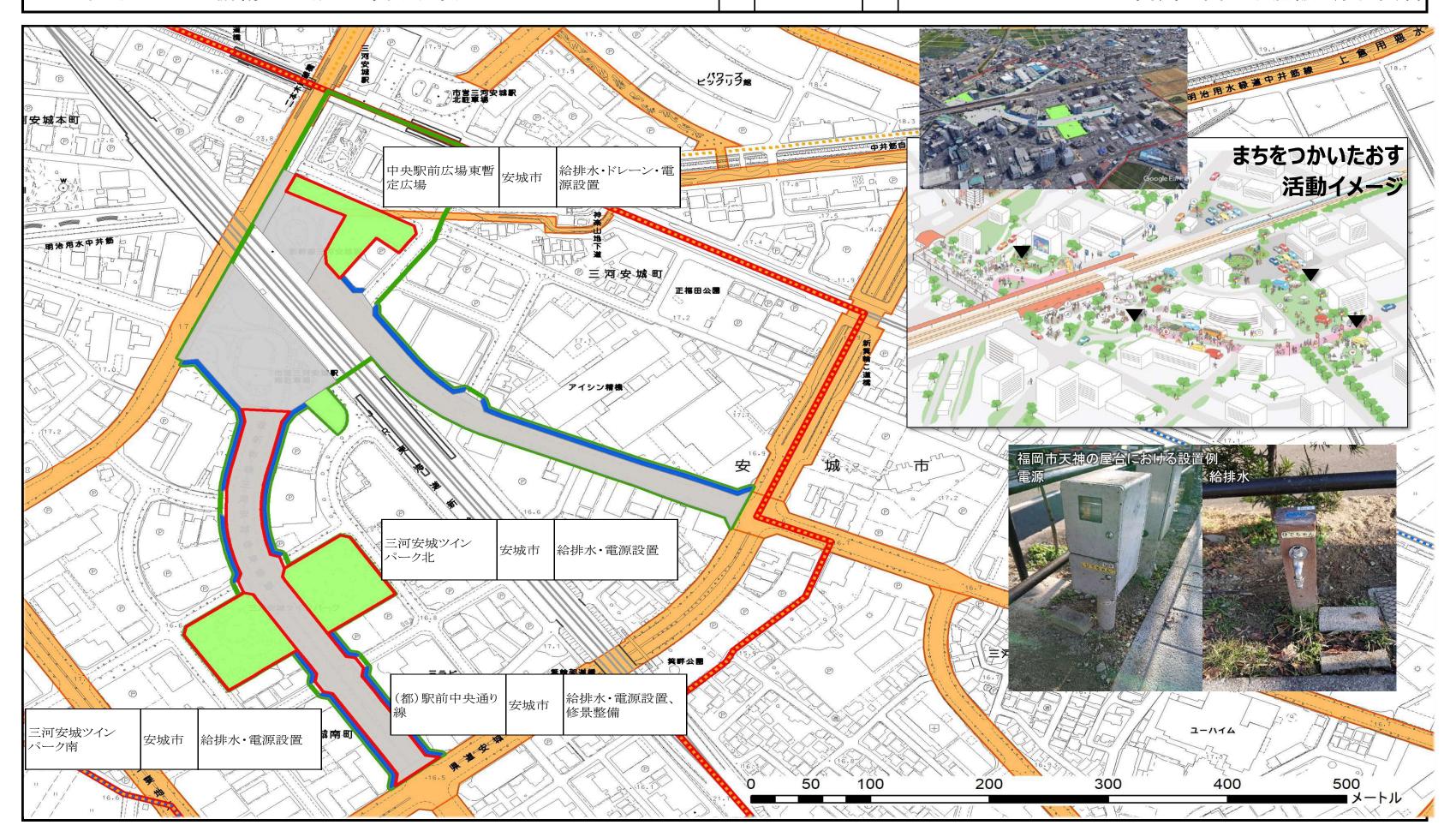
			概要			交付期間内事	事業費内訳		十四, 口7711
交付対象施設	施設名	事業主体	(面積、幅員、	交付期間内	設計費	用地費	施設整備費		備考
	(路線名等)		延長、規模等)	事業費				うち購入費	
緑地								_	
広場								_	
駐車場									
自転車駐車場									
荷物共同集配施設									
公開空地	(都)駅前中央通り線 沿線壁面後退用地		ミクストスペース修景整 備 L=1,000m	30	10		20	_	
情報板	(都)安城幸田線ほか	安城市	中央駅前広場進入禁止表 示灯設置 N=3か所	30	10		20	_	中央駅前広場封鎖状 況を表示。
地域防災施設									
人工地盤								_	
合計		_		60		0	40		



高質空間形成施設

単位:百万円

交付対象施設	施設名	事業主体	概要 (箇所数、規模等)	交付期間内	交付期間内事業費内訳			#位.日ガロ 備考
				事業費	設計費	用地費	施設整備費	
緑化施設等(植栽・緑化施設、せせらぎ・カスケード、カラー舗装・石畳、照明施設、給電・給排水施設、ストリートファニチャー・モニュメント、土塁、堀跡等)	中央駅前広場東暫定広場		給排水・ドレーン・電 源設置	15			15	
	[/ 김L	安城市	給排水·電源設置	6			6	
	一河内地以入八。	安城市	給排水•電源設置	6			6	
	(都)駅前中央通り線	安城市	給排水·電源設置、修 景整備	30	10		20	
電線類地下埋設施設								
電柱電線類移設								
地域冷暖房施設						_	_	
步行支援施設、障害者誘導 施設等								
情報化基盤施設								
合計	_	_	_	57	10		47	



滞在環境整備事業

単位:百万円

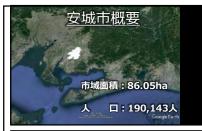
			概要		交付期間内事業費内訳			1 2 1 2 1 3 1 3
項目	施設名/調査内容	事業主体	(箇所数、規模等)	交付期間内 事業費	設計費	用地費	施設整備費	備考
滞在環境の向上に資する環境整備(トイレ、倉庫、トランジットモール化に必要な施設等)				7 782	BAHIM	72.0	NGPC III VIII X	
滞在環境整備に関す る調査等(社会実 験、コーディネート 等)	三河安城マチナカ協創地区	安城市	社会実験(屋根、ベンチ、芝生、倉庫、ライジングボラード、自動車・歩行者センサー等設置。中央駅前広場等のレイアウト変更検討・暫定実施)	149	25	0		自動車・歩行者セン サー等設置は、社会実 験による交通動態への 影響等を把握するため のセンサー設置を想 定。
滞在環境整備に関する 調査 等(社会実験、コーディネート等)	三河安城マチナカ協創地区	安城市	コーディネート支援(活動データベース運用支援、社会実験のコーディネート支援、つから.meet コーディネート支援、つくり・つからデザインブック作成支援)	80	80			活動データベース運用 支援は、社会実験で得 た自動車・歩行者セン サーによるデータを解 析し、可視化により社 会実験の効果を検証 することを想定。
合計			_	229	105		124	

三河安城マチナカ協創地区(愛知県安城市)

滞在環境整備事業 添付資料



置 粈 섟



目標 ①市街化区域への継続的な居住誘導、②市街化区域への継続的な都市根 能の立地維持・確保、34拠点周辺(JR安城駅、JR三河安城駅、名鉄新安城 駅、名鉄桜井駅)への居住・都市機能の誘導強化

平成31年2月1日 計画期間 平成31年2月1日~令和11年3月31日

KPI マチナカ居住誘導区域(居住誘導区域)の人口密度、マチナカ拠点区域 における安心・快適な賑わいあふれるマチナカ拠点区域エリアカバー率、活用 可能な都市的低未利用地面積、市民活動センター登録団体数

【滞在快適性向上区域(まちなかウォーカブル区域)を定めた 都市再生整備計画】

目標 ①パブリックスペースの活用をきっかけとした、民間まちづくり活動と の連携(協創)による「心地よくまちをつかい続けられる」しくみの形成。② ミクストスペースの活用をきっかけとした。 ステークホルダーとの連携 (協 こうストス・スの心所をとうがいたした。ステーンパンテーとの足房(iii)創)による「心地よくまちをつかい続けられる」空間の形成。③マチナカプレ イスメイキングの活用をきっかけとした、民間まちづくり活動とステークホル ダーとの連携による「居心地よく滞在できる」マチナカの形成。

公表時期 令和3年3月31日 計画期間 令和3年4月1日~令和8年3月31日 KPI パブリックスペースを活用した社会実験の増加、社会実験で活用できる ドクストスペースの増加、社会実験参加者数、社会実験の実施団体数

【取り組むまちづくりの概要】

【背景】 本市の三河安城駅周辺は、昭和63年の新幹線駅三河安城駅の開業を契機に、土地区画整理 事業により誕生/成長したまちである。安城市の副都心として、そして西三河の玄関口"新三河文化の 創造"拠点として、「まち」と「ひと」はともに育ってきた。

新幹線駅の開業や土地区画整理事業の施行に加え、三河安城駅周辺まちづくり指導要綱や地区計画 の併用によるまちづくりにより、街区の約88%の敷地に建物が立地し、計画的かつ段階的な居住・都市機能が誘導されている。この居住・都市機能の段階的な立地により、居住者は安定的に増加(開業 前の約4倍、計画人口の約1.3倍(8.060人/2015年国調、当初1.928人、計画6.251人))している。 また、近年では次世代自動車の研究開発企業が現在進行形で集積しつつあるなど、<u>昼夜を問わず**多く**</u> の居住者・就労者が滞在するまちとなっている。

これまでのマチナカでの人流は、居住/就労空間への往来が主であったが、令和2年創設の公共空間を活用した社会実験制度(マチナカプレイスメイキング)を契機に、まちをつかう民間活動も行われ るようになるなど、**少しずつであるがまちをつかう取組が始まっている。**

【課題】 しかし、まちびらきから30年が経過した今、都市施設の陳腐化など、下記課題が発現して いる。その結果、**多くの人々が滞在するにも変わらず、人々の活動がマチナカで見られず、ただ滞在** するだけの空虚なまちとなっている。また、社会全体として、新型コロナウィルス感染対策も踏まえ 「新しい日常」下での、柔軟な公共空間等の活用方法も大きな課題となっている。

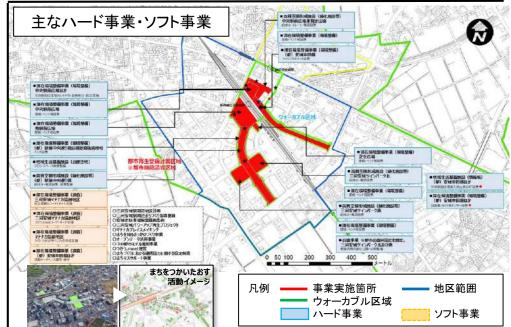
鉄道駅連絡通路の雨漏りや歩道のインターロッキングブロック、公園内公共空間の劣化だけでなく <u>作今の民間活動に見合った機能(電源、給排水等)がマチナカに不足</u>するなど、**都市施設の陳腐化**が

からなっている。 ・公共空間が区域の約46%を占めるにも関わらず、公共空間を使ったイベントなどが定期的に活用するしくみがないため、区域内の活動者が滞在できる公共空間となっていない。

・人が集まって居心地よく滞在できる<u>都市機能(カフェ・店舗など)が少なく</u>、本地域で**滞在する** 人々がいない。 ・公共空間/民間空間をつかった<u>「まちをつかう」社会実験が継続的に行われている</u>ものの、**活動者** のニーズに応えられる都市機能となっておらず、活動内容に限界が生じている。

滞在者のニーズを捉えるべく「まちをつかう」活動が行われているが、社会実験として始まったば かりのため、**認知が進んでいない**。

【取組】 本取組は、<u>○まちをつかうしくみ=ヒト、○活動/滞在する空間=公共空間、○まちをつ</u> かった結果 (マーケット調査) =データ をつなぐ「まちをつかってまちをつくる」取組である。官 三河安城駅周辺で滞在する人々をマチナカに誘い、 それぞれが居心地よくマチナカに滞在 できるまちにアップデートしていくことを主眼とするものである。主たる取組は、オープンスペース の充実、空き地・空き家等の遊休ストックの活用、情報通信基盤設備の設置の3種である。なお、本 取組は三河安城駅周辺を対象とするものであり、マチナカ拠点区域(都市機能誘導区域)に指定し、 将来にわたって居住・都市機能の誘導強化を図るべく行うものである。



組 虰 内

【「新たな日常」下における地域の「稼ぐ力」の向上に向けた取組】

【オープンスペース(街路空間、公園緑地)の充実】

・本取組は、新しい日常に適合しうるパブリックスペース(公共空間)での活動を最大化するものである。まちに潜在する社会ニーズ(市場ニーズ)を、 民間団体の仮説ある活動(社会実験)により顕在させ、まち全体の稼ぐ力を発現/向上させるものである。

・①少しずつ進む民間まちづくり活動の伴走支援(ベンチ等の必要機材の貸与、電源の確保など。コーディネートも別途実施)を行い、②活動によって 得られたデータ等を積み重ね、③データ上で必要と判断される機能等を公共空間に追加していくことで、官民が連携してゆとりとにぎわいある都市空 間を創出していくことを想定する。

・本取組の対象は公共空間(街路、公園)であり、まちなかウォーカブル推進事業を活用して実施する。

【空き地・空き家等の遊休ストック(街路空間に隣接する民間空間)の活用】

・本取組は、新しい日常に適合しうるミクストスペース(民間空間、歩道と一体となる民間の壁面後退用地)のあり方を変化させ、官民が連携してゆとり とにぎわいを感じる都市空間を創出するものである。まちに潜在する社会ニーズ(市場ニーズ)を、民間団体の仮説ある活動(社会実験)により類在さ せ、稼ぐ力を発現/向上させるものである。

・①少しずつ進む民間まちづくり活動の伴走支援(ベンチ等の必要機材の貸与、電源の確保など。コーディネートも別途実施)を行い、②活動によって 得られたデータ等を積み重ね、③データ上で必要と判断される機能等を公共空間に追加していくことで、官民が連携してゆとりとにぎわいある都市空 間を創出していくことを想定する。

・本取組の対象は民間空間(街路に隣接する壁面後退用地)であり、まちなかウォーカブル推進事業を活用して実施する。

【情報通信基盤設備の設置・データ活用・新技術を用いたサービス提供】

ミクストスペース活用例

・本取組は、新たな気づきをうみ、官民連携で稼ぐ力の源泉となるデータ(活動データ/オープンデータ/3D都市モデル)を共有し、稼ぐ力の向上を図 るものである。

・活動によって得られたデータ等を積み重ね、データ上で必要と判断される機能等を公共空間に追加していくことで、官民が連携してゆとりとにぎわい ある都市空間を創出していくことを想定する。また、活動データ、オープンデータ、3D都市モデルデータ等を収集・公表していくことで、新しいニーズの 発掘やより高次な社会課題に気づく機会が創出でき、町全体で稼ごうとする意欲の向上が期待できるものである。

・本取組の対象は社会実験における活動データの取得等に関するコーディネート支援であり、まちなかウォーカブル推進事業を活用して実施する。

<街路空間の活用状況>



株式会社カンドタカメ

<公園緑地の活用状況> パブリックスペース活用状況 屋外オフィス/ランチ提供実験 三河安城商店街振興組合



新しい気づきを共有する データミーティング実施状

パブリックスペース 活用例 子どもの居場所づくり 三河安城まちかど ネットワークlink

<オープンデータ/活動データ/3D都市モデルの活用>















FRPMの先行実施事例



【取り組むまちづくりのKPI】

eSportsブースを出店!

(つかう)公共空間等を活用した、まちをつかう!プロジェクト数 (つくる) つかってつくる!リノベーションエリア

(集まる) まちをつかう! オーディエンス獲得数 (データ) 社会実験で取得し、公表したデータ

(従前値と目標値) 5回/年(令和2年) → 24回/年(令和5年度末) 0% (令和2年) → 15% (令和5年度末) 200人/年(令和2年) → 2.400人/年(令和5年度末) 0データ(令和2年) → 24データ/年(令和5年度末)